

## 自然教育園の陸産、淡水産貝類再調

上島 励<sup>1,\*</sup>・亀田勇一<sup>2</sup>・長谷川和範<sup>3</sup>・齋藤 寛<sup>3</sup>

<sup>1</sup>東京大学大学院理学系研究科, <sup>2</sup>国立科学博物館標本資料センター, <sup>3</sup>国立科学博物館動物研究部

**Rei Ueshima<sup>1</sup>, Yuichi Kameda<sup>2</sup>, Kazunori Hasegawa<sup>3</sup>, Hiroshi Saito<sup>3</sup>: Reinvestigation of land and freshwater molluscs of the Shirogane forest in Institute for Nature Study, National Museum of Nature and Science. Miscellaneous Reports of the Institute for Nature Study (51): 143–145, 2019.**

<sup>1</sup>Department of Biological Sciences, the University of Tokyo, Collection Center, <sup>2</sup>National Museum of Nature and Science, Tsukuba,

<sup>3</sup>Department of Zoology, National Museum of Nature and Science, Tsukuba

### はじめに

自然教育園に生息する陸産、淡水産貝類については、1998～2000年度に実施された同園の生物相調査の一環として、1999年に詳細な調査を行って結果を報告した(上島ほか, 2001)。その後10年以上を経て、2016年度から再び生物相調査が実施され、陸産、淡水産貝類についても2016年11～12月に追加調査を行った。その結果、ヒカリギセル、ホソオカチョウジガイ、サカマキガイ、マメシジミ属の一種の合計4種が新たに確認された。

過去の採集記録を含めると、陸産貝類としては32種、淡水産貝類としては6種が自然教育園から記録された(過去の採集記録で誤同定と思われるものを除く)。貝類相の種構成は、ホソオカチョウジガイやナミコギセルのように人為的に攪乱された環境でも生息できる種類が大半を占め、コハクガイ、サカマキガイのような海外からの移入種も少なくない。在来種は、ナミコギセルのような広域に分布する種類と、ミスジマイマイやトウキョウコオオベソマイマイのような関東地方の低地や森林に生息する種類からなる。

今回の調査の結果を含めた自然教育園の陸貝相を都心部の他の緑地と比較すると、赤坂御用地の23種、常磐松御用邸の8種よりも種数は多く(上島ほか, 2005)、都心部としては比較的豊かな陸貝相といえる。一方、都心部最大の緑地である皇居(42種:上島ほか, 2014)と比較すると、陸産貝類の種数は少ない。しかし、皇居では移入種の種数が多く、“在来種”とされるものについ

ても樹木の移植にともなって他の地域から移入された可能性が排除できないため(上島ほか, 2000)、皇居の方が自然環境が保存されているとはいきれない。むしろ、自然教育園の植生は、その歴史的経緯から武蔵野台地の本来の自然環境を反映している可能性が高く、ここに生息する陸産貝類(在来種)の保全の重要度は高い。

自然教育園に生息する在来陸産貝類で最も注目すべき種はニッポンマイマイである。本種は皇居や他の近隣緑地には生息していないが(皇居では過去に採集記録があるが、現在は絶滅したと考えられる)、園内では複数の生貝が採集された。自然教育園は都心部における本種の唯一の生息地である。

ヒクギセルも皇居には生息していないが、教育園には生息している種である。本種は神奈川県や千葉県では広域に分布する普通種であるが、島嶼部(伊豆諸島)を除くと、都下では生息地が非常に少ないため、教育園に生息していることは注目される。

さらに注目すべき種としてアズキガイがある。アズキガイは本来、中部地方以西に生息するが、東京都では人為的に移入された国内外来種である。本種は関東地方にはもともと生息していなかったにもかかわらず、近年になって都心の緑地で急速に分布を拡大しており、しばしば多産する。自然教育園では、1966年には確認されていなかったが(波部, 1966)、1999年の調査で初めて発見された。定量的な調査を行っていないが、自然教育園内の個体数が1999年の調査時よりも明らかに増加しており、1999年には正門周辺、および南部の限られた地点

\*E-mail: rueshima@bs.s.u-tokyo.ac.jp

でしか見つからなかったのに対して、現在では特別保存地区を含む園内全域に生息しているのが確認された。調査地点によっては、本種は優先種となっており、在来種への影響が懸念される。今後の動向を注視すべき種である。

マメシジミ属の一種は、今回の調査で特別保存地区のサンショウウオ沢から初めて発見された。マメシジミ類は分類学的な再検討が必要なグループで正確な同定は困難である。マメシジミ類は清流や湧き水に近接した水辺から採取されることが多く、本種が都心部の人為的な影響の強い場所から採取されたことは注目に値する。マメシジミ類は皇居や他の近隣緑地からは発見されていないが、微小種であるため、過去の調査では見落とされた可能性もある。近隣地区を含めた詳細な調査が必要である。

## 貝類目録

以下のリストは今回の調査結果と2001年の調査結果をまとめたものである。今回の調査で得られた種は\*で示した。2016年の調査では微小陸産貝類の詳しい調査は行っていない。

### 陸産貝類

#### 腹足綱

ヤマタニシ科 Cyclophoridae

ミジンヤマタニシ *Nakadaella micron* (Pilsbry, 1900)\*

アズキガイ科 Pupinidae

アズキガイ *Pupinella rufa* (Sowerby, 1864)\*

ゴマガイ科 Diplomatinae

ヒダリマキゴマガイ "*Palaina pusilla*" (Martens, 1877)

オカミミガイ科 Ellobidae

ニホンケシガイ *Carychium nipponense* Pilsbry & Hirase, 1904

キセルガイ科 Clausiliidae

ナミギセル *Stereophaedusa japonica* (Crosse, 1871)\*

ヒクギセル *Stereophaedusa gouldi* (A. Adams, 1868)\*

ナミコギセル *Taupaedusa tau* (Boettger, 1877)\*

ヒカリギセル *Zptyx buschii* (Kuster, 1844)\*

アフリカマイマイ科 Achatinidae

オカチョウジガイ *Allopeas clavulinum kyotoense* (Pilsbry & Hirase, 1904)\*

サツマオカチョウジガイ *Allopeas satsumense* (Pilsbry,

1906)\*

ホソオカチョウジガイ *Opeas pyrgula* Schmacker & Boettger, 1891\*

ナタネガイ科 Punctidae

ミジンナタネ *Punctum atomus* Pilsbry & Hirase, 1904

ナタネガイ属の一種 *Punctum* sp.-1

ナタネガイ属の一種 *Punctum* sp.-2

パツラマイマイ科 Discidae

パツラマイマイ *Discus pauper* (Gould, 1859)

コハクガイ科 Gastrodontidae

コハクガイ *Zonitoides arboreus* (Say, 1816)\*

ナメクジ科 Philomycidae

ナメクジ *Meghimatium bilineatum* (Benson, 1842)

ノコウラナメクジ科 Agriolimacidae

チャコウラナメクジ *Ambigolimax* sp.

ベッコウマイマイ科 Helicarionidae

カサキビ *Trochochlamys crenulata* (Gude, 1900)

オオウエキビ *Trochochlamys fraterna* (Pilsbry, 1900)

ハリマキビ *Parakaliella harimensis* (Pilsbry, 1901)

ヒメハリマキビ *Parakaliella pagoduloides* (Gude, 1900)

キビガイ *Gastrodontella stenogyra* (A. Adams, 1868)

ヒメベッコウ *Discoconulus sinapidium* (Reinhardt, 1877)

マルシトラ *Parasitula reinhardti* (Pilsbry, 1900)

ウラジロベッコウ *Urazirochlamys doenitzii* (Reinhardt, 1877)

ナンバンマイマイ科 Camaenidae

ニッポンマイマイ *Satsuma japonica* (Pfeiffer, 1847)\*

オナジマイマイ *Bradybaena similis* (Férussac, 1831)

トウキョウコオオベソマイマイ *Aegista tokyoensis* Sorita, 1980\*

エンスイマイマイ *Aegista conospira* (Pfeiffer, 1851)\*

ミスジマイマイ *Euhadra peliomphala* (Pfeiffer, 1850)

ヒダリマキマイマイ *Euhadra quaesita* (Deshayes, 1850)\*

### 淡水産貝類

#### 腹足綱

カワニナ科 Pachychilidae

カワニナ *Semisulcospira libertina* (Gould, 1859)\*

ヒラマキガイ科 Planorbidae

カワコザラ *Laevapex nipponica* (Kuroda, 1947)\*

サカマキガイ科 Physidae

サカマキガイ *Physa acuta* Draparnaud, 1805\*

## 二枚貝綱

シジミ科 Corbiculidae

マシジミ *Corbicula leana* Prime, 1864

ドブシジミ科 Sphaeriidae

マメシジミ属の一種 *Pisidium* sp.\*

イシガイ科 Unionidae

ドブガイ *Aaadonta woodiana* (Lea, 1834)

## 謝 辞

今回の調査は，港区教育委員会による，天然記念物および史跡「旧白金御料地」の現状変更（生息状況調査）の許可（28 港区教文第 336 号）を受けて実施した。また，現地調査に際しては教育園の遠藤拓洋氏，支倉千賀子氏（2016 年当時）の協力を頂いた。

## 引用文献

波部忠重. 1966. 自然教育園の貝類，自然教育園の生物群集に関する調査報告 第一集（財団法人野外自然博物館講演会発行）：134-135.

上島 励・長谷川和範・齋藤 寛. 2000. 皇居の陸産および淡水産貝類. 国立科学博物館専報, 35：197-210.

上島 励・齋藤 寛・長谷川和範. 2001. 自然教育園の陸産，淡水産貝類. 自然教育園報告, (33)：167-172.

上島 励・山崎一憲・齋藤 寛・長谷川和範. 2005. 赤坂御用地および常磐松御用邸の陸産貝類. 国立科学博物館専報, (39)：499-501.

上島 励・元珍力昇・長谷川和範・齋藤 寛. 2014. 皇居の陸産貝類相. 国立科学博物館専報, (35)：197-210.